八千代市郷土歴史研究会「郷土史研通信」第１０２号　令和３年５月２０日(1.5.9 月年３回）発行

郷土史研通信 第102号

八千代市郷土歴史研究会
会長　田中　巌
事務局　八千代市大和田新田　鈴木方

新型コロナウイルス感染が収まらない状況が続いていますが、会員の皆様如何お過ごしでしょうか。
千葉県でも不要不急の外出制限等厳しい対応が求められています。引き続き感染防止に努めて、自分の身を守って行きましょう。

臼井の子安塔道標銘「くすのき」って？

蕨　由美

うるわしい花と新緑の季節。例年なら皆さまと誘い合って八千代市内の旧村を調査し、また各地の史跡を訪ね廻っていたことでしょう。去年春からずっと巣ごもりの日々。つれづれに、わが家のある佐倉市臼井近辺の史跡を回ってみました。

臼井氏と原氏の居城であった臼井城址、成田街道と雷電ゆかりの臼井宿、そして「臼井八景」の景勝地、そして最近は「臼井八ヶ寺花めぐり」というのも設定されて、臼井の歴史や文化、自然に触れる機会がふえました。

４月 12 日、花めぐりの寺 実蔵院の牡丹の花をめでてから臼井城址へ向かう途中、道場作の旧道脇に、子安塔がありました。かつて子安塔悉皆調査でも出会った安政 4 年銘の赤子を懐に抱く子安像塔で、台座に「右ハさくら、左ハくすのき」の道標銘が刻まれています。

以前から、この「くすのき」の銘を不思議に思っていたのですが、『成田参詣記』巻三、『利根川図誌』巻四を紐解き、その挿図にある臼井山王社の大楠樹のことと知りました。

『臼井旧事録』(1895) によれば、山王社は洲崎にあり、臼井氏初代常康が永久年中 (1113～8) 千葉より移し妙見の末社としたとのこと。大楠は本幹周囲五丈 (15m)、枝から派生した二幹もあり、本幹の八畳ほどの樹洞には大蛇が棲んでいましたが、嘉永 6 年の大雪で枯れ、その根も明治になって樟脳生産のため掘り取られてしまいました。現在洲崎の山王社も大楠もありませんが、道場作の子安塔が「くすのき道標」ともいわれることや、江戸後期の『新版下総成田銚子香取常陸鹿嶋息栖略図』の大和田と臼井の間に「楠木」と記されていることから、臼井山王社の大楠はとても有名で、当時はまさに「地名」になっていたのですね。

そういえば会員有志と、1998 年夏、成田街道新木戸交差点角の道標残欠に残っていた「血流」の二文字から、「血流地蔵尊」を祀る吉橋の貞福寺への道標とわかったこと、また 2013 年夏、成田街道沿い加賀清水入口の常夜燈道標群のうち、七代目団十郎銘の「成田山道標」の台石左面の銘「是より/先崎/おハし能/宮へ/一り」が先崎鷲神社を示すと判明した時の、難解なクイズを解けたようなわくわくした感銘を思い出しました。

皆さまとまた、そのような謎解きフィールドワークをご一緒できる日を待ち望んでいます。